

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】 (中学校用)

都道府県名	静岡県
-------	-----

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	裾野市立 西中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	4	1	11	21
生徒数	120	120	124	4	368	

研究の概要

1. 研究主題

「生きる力を育む教育課程の在り方」  
 ~ 教科、選択、総合学習を通して、「基礎学力の定着」をはかる授業の改善 ~

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

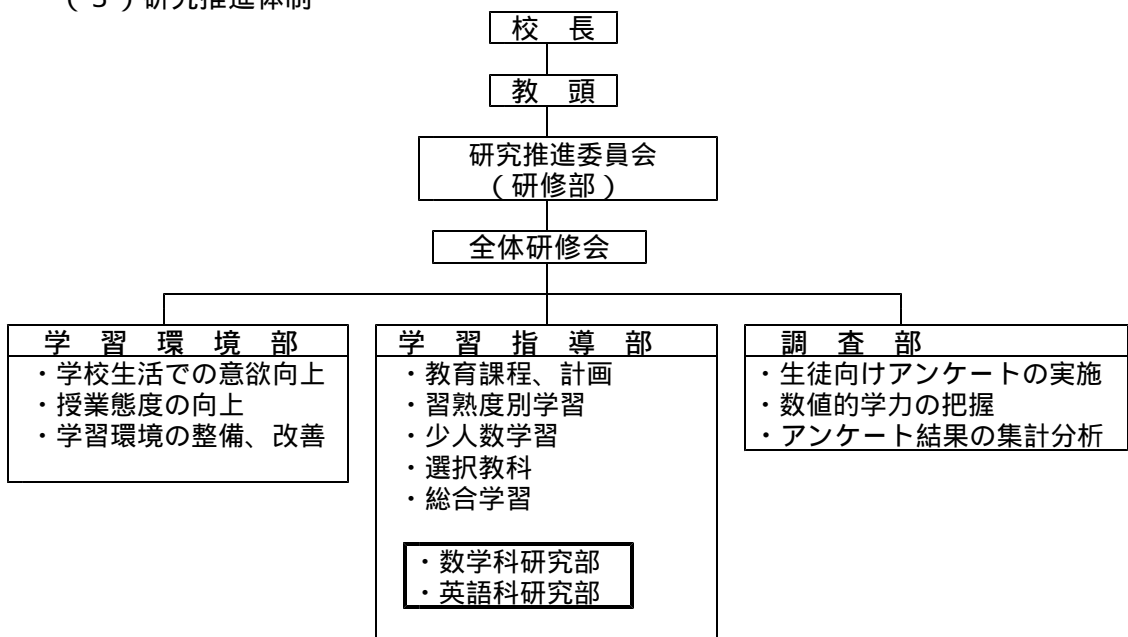
- ・ 1, 2, 3年 ・ 数学  
 生徒の理解の状況に差が生じやすく、各学年ともその傾向が強いので全学年で実施した。
- ・ 1, 2, 3年 ・ 英語  
 1年の後半から生徒の理解の状況に差が生じやすく、学年が進むにつれてその傾向が強まるので、特にコミュニケーション能力の育成を目的に全学年で実施した。
- ・ 1, 2, 3年 ・ 選択教科  
 全学年で可能な限り、選択教科の履修幅を拡大し、その中で「基礎力定着」の時間と「応用力」「実践力」を養う時間を設けて、その成果を研究した。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ                  「教科、選択、総合学習を通して、「基礎学力の定着」をはかる授業の改善」                  研究の見通し (仮説)                  「生徒一人一人が学習の目的や目標、学習課題や学習方法、他者との関わり方等を、主体的に選択することによって、意欲をもって学習に取り組むことができ、その結果が個々の学力の向上に繋がる。」                  研究の内容・方法                  各教科において、生徒一人一人が学習の目的や目標、学習課題や学習方法、他者との関わり方等を、主体的に「選択」する場面を取り入れた授業を計画し、実践することで、「学力」の向上が図られるかを確かめた。</p> <p>(1) 少人数学習の推進                  ・ 数学科、英語科では、週3時間のうち1時間を習熟度別小集団学習とし、1学級を2コースに分ける形をとった。</p> <p>(2) 選択教科における履修幅の拡大                  ・ 1年生 A. 国語3、数学3、英語3の各コース中から1時間を選択                  ・ 2年生 A. 国語3、数学2、英語2の各コース中から1時間を選択                  B. 技術家庭を除く8教科各1コースから1時間を選択                  ・ 3年生 A. 国語2、数学1、英語2の各コース中から1時間を選択                  B. 国語1、社会2、数学1、理科2、英語1の各コースから1時間を選択                  C. 4教科各1コースから1時間を選択                  D. 技術家庭を除く8教科各1コース(保体のみ2コース)から1時間を選択</p> <p>(3) 総合的な学習の時間 (西竜タイムの設定)                  ・ 生徒自身が設定したテーマに対して、自ら問題解決するために必要な手段(スキル)を身につけさせる時間と、実際にそれを用いてテーマにそった追求をはかる時間の両面からの深化をはかった。</p> <p>(4) 評価・評定方法の改善                  ・ 年間指導計画の中に、生徒の自己評価、相互評価を実施する場面を設定し、単元の事前、中間、事後の3段階での評価を実施する。</p> <p>(5) 要請訪問の実施、外部講師を招聘しての研修会の実施                  ・ 12月、2月に東部教育事務所指導主事を招いて研究授業を実施。                  ・ 2月に静岡文化芸術大教授 有園 格先生を招いての講演会を実施。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 「教科、選択、総合学習を通して、主体的に学ぶ生徒の育成をはかる」 研究の見通し（仮説） 「確かな学力を「基礎・基本」と「自ら学び自ら考える力」の二段階ととらえ、それぞれの向上をはかるために、数学、英語において主体的に選択する場面を設定し、それによって生じた学習意欲を継続させていく手段や授業計画を研究する。そしてこれによって得られた学習意欲を喚起させる方法を、他教科にも応用することで、すべての教科において主体的に学ぶ生徒の育成をはかる。」</p> <p>研究の内容・方法 （１）少人数学習の推進 ・数学科、英語科では授業計画に基づいて、習熟度別学習や小集団学習を行う。 （２）選択教科における教科開設時のねらいの明確化 ・教科開設時のねらいを必修教科の補充、応用力の育成、技能教科においては表現活動とする。 （３）学年ごとの総合学習が目指す姿を設定し、各学年の発達段階に応じたスキルを身につけさせる。</p>
--------	--

（３）研究推進体制



「学力向上フロンティアスクール」の取り組みを特定の教科に偏ったものにするのではなく、学校全体で推進していくために、全職員による研究体制を整えていく。全職員が三部会に所属し、各部会ではそれぞれの視点から生徒の学力向上を図る取り組みを行う。また教科部会では授業研究を中心に進めていく。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

（１）昨年度と本年度の評定結果による比較

昨年度と本年度は、各教科ともほぼ同一の評価規準に基づいて観点別評価を行い、その積み重ねによって学期ごとの評定を出している。そこで本年度2, 3年生について昨年度1, 2年生の時の評定と本年度の2学期の評定結果を比較してみると、1, 2の評定を受けた生徒の数は大幅に減少している。  
C評価の生徒をB評価に引き上げるための各教科の取り組みが、成果として表れたといえる。

	現3年生		現2年生		* 評定 1, 2 の生徒 数
	H14人	H15人	H14人	H15人	
国	26	29	42	32	
社	30	24	34	30	
数	36	30	70	56	
理	29	23	27	28	
英	30	18	33	38	

（２）英検・数検受検者の増加  
本年度英語検定受検者は2級から5級まで、のべ155名。これは全校生徒の4割に達している。また、数学検定についても、生徒の方から挑戦したいという声上がり21名が挑戦し、12名が各級に合格している。これも生徒が意欲をもって学習に取り組んだ姿の一つの表れと考えられる。

- (3) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発について
  - ・習熟度別学習や少人数学習において、生徒一人一人の思考を支援するプリント類を複数作成し、用意することで生徒の学習意欲の喚起を図った。
  - ・「生徒が学ぶ楽しさを感じた指導資料」の蓄積を図り、教材開発の参考にしている。
- (4) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善について
  - ・全教科で研究授業を最低年1回行い、その中で生徒の実態に合わせた習熟度別学習や少人数学習、TTあるいは授業内容の複線化を図り、その成果を全員で研修し、よりよい指導方法・指導体制の確立をめざしてきた。
  - ・時間割の中に教科部会の時間を必ず週一回位置づけ、進度の確認や指導方法についての検討を行っている。
  - ・昼休みを使って苦手な教科に対する個別指導を実施しているほか、夏休み、冬休みには希望する生徒を対象に補習学習を実施した。
- (5) 児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善について
  - ・「数学」「英語」においては少人数クラスに分ける前にレディネステストを行い、その評価と生徒自身の希望と合わせてクラスを編成し、生徒の実態に即した指導に役立てることができた。
  - ・各学期の中間でプレ評価を行い、正式な学期末の評価を出す前に、学期全体を見通した指導の資料として活用している。

## 2. 今後の課題

- (1) 習熟度別や少人数を行っている教科では、どうしても進度のバラツキが大きくその調整に苦労している。特に本校は今年度固定式時間割のため、時間数のずれがどうしても大きくなってしまい、対応に苦慮している。
- (2) 特に実技系の教科において、実技の指導をしながら評価を行っていく難しさを上げる声がある。少人数学習のできない教科、週に一時間しかない教科ではなかなか評価をタイムリーに指導につなげていきにくい面がある。

### 学力把握のための学校としての取組

- 年5回の定期テスト：各学期における定着の程度を客観的に判断するための資料として5教科は5回、4教科は3回実施している。
- CRT検査(国・数・英)：全国の標準と比較した客観的な本校生徒の学力把握のため平成16年2月実施。平成17年2月実施予定。
- 「基礎力テスト」(国・数・英)：每学期1教科ずつ「基礎学力定着プラン」に掲げた目標に沿った内容の定着と、その成果を調査するため。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・研究発表会を実施予定
  - 日時 平成16年 11月 10日
  - 場所 裾野市立西中学校
  - 対象 駿東地区の小中学校
  - 目的 これまでの研究に基づいた授業公開および研究成果の報告
- ・メールアドレス : sjhwst-2@educet.plala.or.jp

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |              |            |    |       |
|----------------------|--------------|------------|----|-------|
| 【新規校・継続校】            | 15年度からの新規校   | 14年度からの継続校 |    |       |
| 【学校規模】               | 3学級以下        | 4～6学級      |    |       |
|                      | 7～9学級        | 10～12学級    |    |       |
|                      | 13～15学級      | 16学級以上     |    |       |
| 【研究教科】               | 少人数指導<br>その他 | TTによる指導    |    |       |
| 【研究教科】               | 国語           | 社会         | 数学 | 理科    |
|                      | 外国語          | 音楽         | 美術 | 技術・家庭 |
|                      | 保健体育         | その他        |    |       |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 |              | 有          | 無  |       |